

「一気飲み」が死亡事故へ

急性アルコール中毒の危険性



急性アルコール中毒



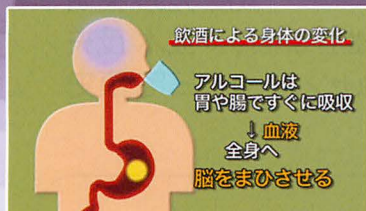
急激な大量飲酒での
中枢神経や脳のまひ

慢性アルコール中毒



酒を飲まずにいられない
アルコールへの依存症

まったく別の中毒



企画意図

大学生を送っていた健康な若者が、ある日突然、命を失ってしまう。そんな急性アルコール中毒による悲劇が後を絶ちません。その原因の多くが、サークルなどの飲み会での「一気飲み」です。

アルコール中毒というと、アルコール依存症のことを思い浮かべる方が多いのですが、急性アルコール中毒はそれとは異なり、中枢神経に作用して、時には死に至ることもある極めて危険な急性中毒です。一気飲みをした場合、血中アルコール濃度が急速に高まり、いきなり昏睡状態から死亡へとつながる事故が発生するのです。

このDVDでは、アルコールで酔うとはどういうことなのか解説するとともに、飲酒事故の再現映像や救急医療の専門医のインタビューをおりまぜて構成。一気飲みの危険性、飲酒事故の恐ろしさを、ナビゲーターの案内でわかりやすく解き明かしていきます。また、「日本人に多く見られる体質的に飲酒ができない人、弱い人に飲酒の強要は絶対にしない」など、事故を繰り返さないためには飲酒時のルールが大切であることを訴えかけます。

注意をしても不測の事態は起きることがあります。もし万が一飲んでいて仲間が急性アルコール中毒になった場合にすべき処置なども描き、いざというときの対応についても紹介します。

作品の概要

大学生活を送っていた健康な若者が、飲酒によって突然、命を落とす——あってはならない悲劇が何度も繰り返されている。アルコールの持つ恐ろしい一面と、背景にある問題点を、ナビゲーターと共に探っていく。

■急性アルコール中毒とは

通常の飲酒では爽快期、ほろ酔い期、酩酊期、泥酔期、昏睡期という順番で身体に変化が起こる。しかし「一気飲み」などで一度に大量のアルコールを摂取した場合、血中濃度が急上昇し、突然意識を失うような「急性アルコール中毒」を起こすことがある。嘔吐物で窒息したり、心臓麻痺を起こすこともある危険な状態で、常習的に飲酒を繰り返して起こる「慢性アルコール中毒」とは全く別の中毒だ。処置が遅れると命を失う。

■飲酒時の悪習

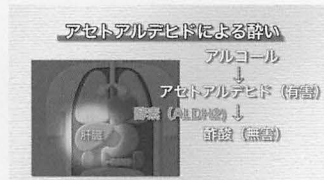
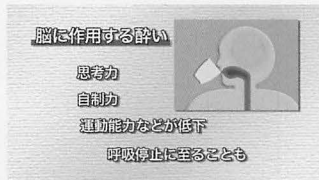
断る相手に軽い気持ちで酒を強要、仲間で盛り上げて「一気飲み」を勧めるなど、急性アルコール中毒に関する知識の無さが誘引する悪習は、今すぐ断ち切らなければならない。

■アルコールによる酔い方

酔いには脳に作用する酔いとアセトアルデヒドによる酔いがある。アセトアルデヒドを体内で分解する酵素の働きが弱い人、中には酵素を持たない人もいることを知り、飲酒の強要は絶対にしてはならない。

■急性アルコール中毒の対処法

万が一急性アルコール中毒になってしまった時、救急車が到着するまでの対処法や、搬送された病院で行われる治療などを、救急隊員、医師の解説と再現映像で詳しく説明する。



企画・制作統括 高木 裕己
脚本・演出 細見 吉夫
撮影 世良 隆浩
制作 北西 洋一
ナレーター 小出 マサト
コーディネーター 斎藤 晃顕

監修 国立大学法人 兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授 鬼頭 英明
公益財団法人 日本学校保健会 事務局長 並木 茂夫
指導 昭和大学病院 救命救急センター長 三宅 康史

協力
日本大学生物資源科学部
昭和大学病院救命救急センター
厚木市危機管理部
厚木市消防本部

- ライブラリー価格 本体 **¥65,000**+税
- DVD [カラー・約20分]
- 2015年

●お問い合わせ、お買い上げは……

(株)オプチカル 販売課 教育映像係
香川県高松市屋島西町2484-8
TEL 087-841-1100
FAX 087-841-1101